



# 株主通信

YBHD NEWS No.39

平成26年8月

証券コード：5911



株式会社 横河ブリッジホールディングス



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

*The Next Perspective*





代表取締役社長

浅井 久司

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、株主通信「YBHD NEWS」第39号をお届けいたします。

我が国経済につきましては、消費増税の影響は限定的で、緩やかな回復軌道に戻るとの予想のなか、政府は法人税減税や『岩盤規制』の改革に踏み出し、新しい成長戦略・骨太の方針を決め、日本経済の真の再生に向けて進んでいくと思います。

建設業界につきましては、インフラ老朽化により橋梁とトンネルの定期点検を義務付ける国土交通省令が本年7月1日に施行され、道路分野での本格的な維持管理・更新時代が幕を開け、保全事業の新たな展開が期待されます。

このような環境下、当社グループは新体制がスタートし、さらにグループの結束を強め、競争力の強化を図ってまいります。

今後も役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう一層の努力をしてまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年8月

平成26年7月30日に、平成27年3月期第1四半期（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介いたします。

連結経営成績（累計）

|        | 平成27年3月期第1四半期 | 平成26年3月期第1四半期 |
|--------|---------------|---------------|
| 売上高    | 22,845 百万円    | 19,684 百万円    |
| 営業利益   | 1,562 百万円     | 1,067 百万円     |
| 経常利益   | 1,617 百万円     | 1,135 百万円     |
| 四半期純利益 | 915 百万円       | 614 百万円       |

【連結経営成績に関する定性的情報】

当社グループの当第1四半期の受注高は135億円（前年同期比66億1千万円減）となりました。

セグメント別の受注高は、橋梁事業63億4千万円（同73億円減）、エンジニアリング関連事業64億2千万円（同5億1千万円増）、先端技術事業7億3千万円（同1億7千万円増）となりました。

決算面につきましては、当第1四半期の売上高は228億4千万円（同31億6千万円増）、営業利益は15億6千万円（同4億9千万円増）、経常利益は16億1千万円（同4億8千万円増）、四半期純利益は9億1千万円（同3億円増）となりました。

セグメント別の売上高は、橋梁事業155億1千万円、エンジニアリング関連事業66億7千万円、先端技術事業4億6千万円、不動産事業1億9千万円となりました。

橋梁事業の売上高は豊富な手持ち工事の進捗によって前年同期を上回りました。セグメント利益は大型保全工事の増額変更による工事採算の改善もありましたため前年同期を上回りました。

エンジニアリング関連事業はシステム建築事業の業績拡大により受注高、売上高、セグメント利益は増加しました。

先端技術事業は受注高は前年を上回りましたが、期首の受注残高の減少により売上高、セグメント利益は減少いたしました。

平成27年3月期の連結業績予想

|                 | 第2四半期連結累計期間<br>（平成26年4月1日～平成26年9月30日） | 通 期<br>（平成26年4月1日～平成27年3月31日） |
|-----------------|---------------------------------------|-------------------------------|
| 売上高             | 45,000 百万円                            | 96,000 百万円                    |
| 営業利益            | 2,350 百万円                             | 5,000 百万円                     |
| 経常利益            | 2,400 百万円                             | 5,100 百万円                     |
| 当期（四半期）純利益      | 1,500 百万円                             | 3,200 百万円                     |
| 1株当たり当期（四半期）純利益 | 34円99銭                                | 74円65銭                        |

【連結業績予想に関する将来予測情報】

平成27年3月期第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想につきましては、前回（平成26年5月14日付け）公表いたしました予想値から変更はありません。



株式会社檜崎製作所  
代表取締役社長 小櫻 義隆

○就任の抱負

当社は昭和10年に造船業として設立。その造船技術を足がかりに橋梁と機鉄（ゲート、鉄管、船舶上架施設、水処理・環境機械など）の専門メーカーに成長し、北海道・東北を中心に活動しています。今後の抱負としては以下のように考えています。

- 1) 橋梁事業は、グループとの連携強化を図りながら、今後も事業拡大に努めます。
- 2) 機鉄事業は、グループでも当社のみが行っている機械系事業であり、また北海道内市場は橋梁よりも大きいので、将来は橋梁以上の事業に成長させたいと思います。

○今後の事業展開

橋梁事業についてはグループの総力を結集して受注活動を展開した結果、昨年度は北海道内のリーディングカンパニーとしてトップシェアを確保しました。平成26年度の道内の橋梁発注量は前年並みの1万 t 強と見込んでおり、今年度も昨年同様トップシェアの確保に努めてまいります。また東北地域の橋梁受注にも注力してまいります。

次に機鉄事業の鉄管については大型ベンディングローラーを新設したので、電力管、灌漑用水管などを効率よく生産することが可能になりました。今後もゲートと鉄管は重点事業として取り組んでまいります。当社オリジナル商品の船舶上架施設は、更新時期に入っているのでリピーターを大切に、更新工事を確実に受注できるように客先にアプローチしてまいります。上下水道設備の官公庁物件は毎年更新工事が発注されておりますので、当社の主力事業にしたいと思っています。水処理環境事業においては、多分野で当社製品をご利用いただいており、今後は開発製品を含め各種製品を改良し、よりよい製品が提供できるよう努力してまいります。



株式会社横河技術情報  
代表取締役社長 金子 俊一

○就任の抱負

当社は株式会社横河橋梁製作所（現株式会社横河ブリッジホールディングス）における鋼橋の設計、製作に係わるコンピュータソフトウェアの開発および受託処理サービス部門を母体とし、昭和59年7月に分離独立して発足しました。爾来30年にわたり、Create & Serviceという社是のもと、鋼構造物の設計、製作、生産管理分野におけるソフトウェアの開発と販売、情報処理サービスの受託処理を主たる事業として展開してまいりました。

横河ブリッジホールディングスグループの事業セグメントでは先端技術事業に属し、グループの事業会社の中では売上高、従業員数ともに小規模ではありますが、ITによる工場の生産性向上や先端技術サービスの提供でグループの成長に寄与してまいります。また、情報システムを通してよりよい社会資本の整備やものづくりに貢献することを使命とし、商品やサービスを磨いて顧客に信頼され、必要とされる会社を目指してまいります。

○今後の事業展開

鋼橋自動設計システムは、鋼道路橋設計のNo.1ソフトウェアとして遍く浸透しており、システムの使用拡大が収益に直結する事業です。新設橋梁の建設需要が縮小している現状に鑑み、改築や更新に対応する機能追加や、図面が失われた既設橋梁の図面復元システム開発などにより、使用機会の拡大を図ってまいります。

鋼橋生産情報システムは、対象構造物を橋梁上部工から拡大し、合成床版や鋼製橋脚に対応する機能拡張により利便性を高め、使用機会の拡大を図ってまいります。同時に、同システムの基盤技術を応用して、トンネル用セグメントやシステム建築など橋梁以外の鋼構造物の生産情報を作成するシステム開発を実施し、グループの事業を支援してまいります。

鋼板溶断業界向けに展開しているCAMシステムや生産管理システムは、既存顧客の深耕による需要掘り起こしを図ると同時に、芽が出つつある他業界の新規顧客開拓を継続してまいります。



Topics

1

陸前高田市の復興に貢献！  
「希望のかけ橋」架設工事

この吊橋の建設は、東日本大震災による津波被害を受けた、陸前高田市街を嵩上げ復興する被災市街地復興整備事業の1つで、気仙沼側の山を切り崩し、気仙川の対岸にある嵩上げ区間に、直接ベルトコンベヤーで土砂を運搬する為の吊橋です。

このベルトコンベヤーは、延長約3km、幅1.8mあり、1日にダンプトラック4,000台分の土砂を運ぶことができます。これにより、ダンプカーで運ぶよりも工期を6年程度短くすることができるほか、交通事故を回避することもできます。

架設工事は、平成25年8月から開始され、強風や雪に幾度も悩まされながらも、今年の2月に完成することができました。この吊橋は、地元の子供達のさまざまな思いが込められた「希望のかけ橋」と名付けられました。吊橋の近くには有名になった「奇跡の1本松」もあります。

工事名：陸前高田市震災復興事業

発注者：独立行政法人都市再生機構

受注者：清水・西松・青木あすなる・オリエンタルコンサルタンツ・国際航業JV

元請JVが調査・測量から設計・施工までの一体的業務を担当し、(株)エスシーマシーナリ、古河産機システムズ(株)からベルトコンベヤー設備の供給を受けて、当社グループの横河工事株式会社が、吊橋区間を施工いたしました。

工 期：平成25年8月1日～平成26年2月28日

最大スパン：220.0m

主 塔 高 さ：42.6m

鋼 重：547 t（ケーブル重量含む）



ベルトコンベヤー部分



架設の様子

Topics 2

## 株式会社横河ブリッジ・株式会社横河住金ブリッジ、 近畿地方整備局より局長表彰を受賞！！

### 株式会社横河ブリッジ、 優良工事部門を受賞

工事名称：近畿自動車道紀勢線 大谷橋上部工事  
工 期：平成25年1月29日～平成26年1月31日  
構造形式：3径間連続少数鈹桁橋  
橋 長：142m  
鋼 重：299 t  
所 在 地：和歌山県田辺市中万呂地先



本工事は大阪府松原市を起点に紀伊半島を周り三重県多気町に至る近畿自動車道紀勢線の一部の橋梁製作、架設工事です。近畿自動車道紀勢線は大阪から和歌山県の南紀田辺ICまでは既に開通しており、大谷橋を含む南紀田辺IC～すさみICの区間が平成27年度中に供用開始予定となっています。

この紀勢線（南紀田辺IC～すさみIC間）が開通されると京阪神と紀南地域が高速道路で結ばれ、地域相互の産業、経済、文化、観光の振興と発展が期待されます。

また、現在紀南地域付近には幹線道路が国道42号線しかなく、土砂災害や越波の影響を受け通行止めになることがあります。そのような災害には紀勢線が国道42号の代替路となる重要な道路となります。

本工事では安全に工事を進めるとともに、地元小学生80名を対象とした堺工場での見学会や、地元住民の皆様を対象に現場での見学会を開催いたしました。

こうした地元の方々とコミュニケーションを積極的にとることにより良好な関係を築くことで、工事を円滑に進め竣工することができました。



大谷橋全景

このたび近畿地方整備局より株式会社横河ブリッジは『大谷橋上部工事』で、株式会社横河住金ブリッジは『大朴川橋上部工事』で優良工事部門において局長表彰を受賞いたしました。さらに横河住金ブリッジにおいてはイメージアップ部門でも局長表彰を受賞する栄誉に輝きました。

### 株式会社横河住金ブリッジ、 優良工事部門とイメージアップ部門をダブル受賞

工事名称：丹波綾部道路 大朴川橋上部工事  
工 期：平成24年10月26日～平成26年2月28日  
構造形式：4径間連続少数鈹桁橋（上下線）  
橋 長：186m  
鋼 重：731 t  
所 在 地：京都府船井郡京丹波町



本工事は、南北に長い京都府を縦貫して宮津市から久御山町に至る、長さ約100kmの京都縦貫自動車道のうち、綾部JCT～丹波IC間、延長29.2kmの丹波綾部道路の一部として発注されたものです。工事用道路として下り線の早期供用を求められたことや、国道上空での夜間施工、橋のすぐ下に民家が近接するなど、工程面、環境面で細やかな配慮を要する工事となりましたが、無事故無災害で無事竣工を迎えることができました。また、地元住民の皆様とは、現場見学会やクリスマスイベント、祭礼行事などで積極的な交流を図り、地元の区長さんから立派な感謝状もいただきました。そのような取り組みが優良工事部門表彰に加え、イメージアップ部門も加えたダブル受賞につながったものです。

ちなみに、この区間が完成しますと、京都府南北間の移動時間短縮はもちろんのこと、京都府北部地域の観光客の増加といった沿道地域の活性化や災害時等における代替路の確保など、その効果に大きな期待が寄せられています。



架設の様子



現場見学会

## 株主メモ

|                     |                                                                                      |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業年度                | 毎年4月1日から翌年3月31日まで                                                                    |
| 配当金<br>交付株主確定日      | 毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、<br>毎年9月30日                                                    |
| 定時株主総会              | 毎年6月下旬                                                                               |
| 単元株式数               | 100株                                                                                 |
| 株主名簿管理人             | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233<br>三井住友信託銀行株式会社                                          |
| 郵便物送付先<br>電話お問い合わせ先 | 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部<br>電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)         |
| 同取次窓口               | 三井住友信託銀行株式会社<br>本店および全国各支店                                                           |
| 公告方法                | 電子公告により行います。ただし、事故その他<br>やむを得ない事由によって電子公告による公<br>告をすることができない場合は、日本経済新<br>聞に掲載して行います。 |
| 公告掲載URL             | <a href="http://www.ybhd.co.jp/">http://www.ybhd.co.jp/</a>                          |

表紙写真上:大谷橋(おたにはし) 株式会社横河ブリッジ施工  
所在地:和歌山県田辺市中万呂地先  
構造形式:3径間連続少数鈑桁橋 橋長:142m 鋼重:299 t

表紙写真下:大朴川橋(おおほそかわはし) 株式会社横河住金ブリッジ施工  
所在地:京都府船井郡京丹波町  
構造形式:4径間連続少数鈑桁橋(上下線) 橋長:186m 鋼重:731 t



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111 (代表)

## YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス  
グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ  
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造



横河工事株式会社  
土木・建築・保全



株式会社 横河システム建築  
システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河住金ブリッジ  
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 檜崎製作所  
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



株式会社 横河技術情報  
情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ  
不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイシーイー  
橋梁等構造物の総合エンジニアリング



<http://www.ybhd.co.jp/>